

A1-⑤ 陥入爪に対して超弾性ワイヤを導入した事例

《カバーレター》 関節リウマチや末梢動脈疾患、糖尿病などの患者は、小さなフットラブルが重症化しADL低下につながる可能性がある。そのような患者が多い在宅診療でも、生活指導や爪白癬、胼胝、鶏眼などへのフットケアによって良い状態が保てていた。しかし今回は分子標的薬使用者の爪周囲炎や、それによる陥入爪が悪化する事例が続いた。そのため特別な道具が必要なく、在宅でも施行可能なマチワイヤを用いた陥入爪の治療を導入した。導入にあたっては院内で勉強会を行い、使用方法などについて議論した。実際に担当患者に適用して疼痛改善につなげることができ、限られた資源や環境の中で有効な方法を用いることができた。

【症例】82歳女性 肺腺癌stageIV

【病歴】

肺腺癌に対して呼吸器内科に通院化学療法をしていたが、症状コントロールのため訪問診療が導入された。もともと陥入爪があったが、ゲフィニチブを開始してから爪周囲炎がひどくなり、歩行時の痛みが出現した。日常生活に支障があり、QOLを著しく損なっている状態であった。ゲフィニチブを中止後も痛みが残り、テーピングやコットンパッキングで対応するも改善しなかった。

【方針】

有効な治療を行うため、超弾性ワイヤ(マチワイヤ®)※の情報収集をし、導入を検討した。

超弾性ワイヤ(マチワイヤ®)について

- 弾力の強い直線状のバネ
- 爪に穴を開けて装着する
- 材料は1本(2-4指分)4,000円
- 矯正力は数カ月間持続
- 医療保険適用外。
- 爪が2-3mm伸びないと使えない。
- 矯正力が強すぎて爪が横に割れることがある。

【導入の問題点を解決する】

①使用経験がないため、どう使えばよいかわからない。
まず情報共有を目的に、院内スタッフに陥入爪のフットケアとマチワイヤを用いた治療についてのレクチャーを行った。その際のスライドの抜粋を右に示す。

②費用の問題:医療保険適用外である。

レクチャー後に導入方法についてのディスカッションを行った。

費用については、導入時期はクリニックで材料費を負担することとした。数例の治療経験を経て、問題無ければ患者さんへの材料費や処置費などを請求する方針とした。

テーマ「陥入爪への治療」 院内レクチャースライドより抜粋

陥入爪、弯曲爪の痛みに

- ・テーピング
 - ・コットンパック
 - ・生活指導ができる
- で応急処置できる

- ・マチワイヤ
- ・マチプレート

治療について

- ・生活指導
 - 深爪をしない。
 - 自分にあった靴をはく。先の丸い紐靴がお奨め

治療:テーピング

- ・深爪による爪周囲炎の応急処置に



治療:コットンパッキング



- ・軽度の陥入爪に
- ・ピンセットで、爪角に米粒大の綿を詰め込む
- ・入浴後がお勧め
- ・爪が肉芽に刺さらなくなる



治療:マチプレート(形状記憶合金)



外科用接着剤で爪に張り付けてヘア・ドライヤーで一日に2-3回温める。

○利点: 常温では軟らかい板バネなので爪が短くても簡単に貼れます。温めると矯正力が回復します。再使用できます。

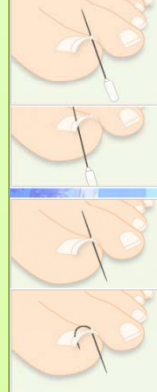
治療:マチワイヤ

マチワイヤに使う器具



1. マチワイヤ
爪矯正用の形状記憶合金ワイヤー
1本(2-4指に使える) 4,000円
太さは0.25mmから0.6mmまで8種(0.05mm刻み)
成人母趾では多くの場合0.45mm、0.5mm(標準)、0.55mmが適応
2. 穴あけ用:23G注射針orピンバイス(ドリル 刃0.5mm- 0.75mm)
3. ニッパー
4. ラジオペンチ

マチワイヤの使い方



2mm以上伸びた爪に穴をあける



マチワイヤを穴に通す



ワイヤを逆U字に折り返して反対側の穴に通す



たわみを取って、爪の裏から出ているワイヤを、爪縁から出ないように切り取る

【準備】

- ・業者から超弾性ワイヤ、プレートを購入
- ・処置器具の購入(ニッパー、ラジオペンチなど)
- ・外科用アロンアルファの購入

【治療方法について患者・家族に説明し同意が得られた】

- ・陥入爪の痛みをとる良い方法であり、治療として一般的になってきている。
- ・保険適用外なので費用は自己負担になるが、クリニックとしては経験がなく現在は導入の段階なので、初回はクリニックの負担で行う。
- ・爪が割れてしまうこともあり、その際はコットンパッキングなどの対症療法で、経過をみる。

【患者への適用】

右母趾の陥入爪に対して、23Gで穴をあけた。標準径の0.5mmのマチワイヤを通して、たわみを取ってカットした。

【治療の効果】

施行後は歩行時の痛みは軽快し、歩行時の苦痛が消失した。

【施行時の問題点】

爪がやや軟らかかったのか、少し割れてしまった。次回交換が必要な際には0.4mmのものを用いることとした。

【Next Step】

- ・予防のためのフットケアを啓蒙する。
- ・適応をよく吟味して、必要な症例には超弾性ワイヤやプレートによる治療をおこなっていく。

【参考】

巻き爪・陥入爪・外反母趾を治す本 町田英一
新しい創傷治療 <http://www.wound-treatment.jp/>
多摩メディカルホームページ <http://tama-medical.com/>

【考察】

高齢者において歩行の問題は、廃用や寝たきりに容易につながっていくためフットケアは重要である。今回は抗癌剤による爪周囲炎から陥入爪の症状が悪化した事例を経験した。この症例を通じて、超弾性プレート(マチプレート®)、超弾性ワイヤ(マチワイヤ®)を用いた陥入爪・巻き爪の治療方法を、スタッフと共有して、導入することができた。患者への治療としてもうまくいき、QOL改善に寄与できたことは、とてもうれしく思った。

在宅症例においては、ADLの低下によって皮膚科などの受診をすることも難しい場合があり、今回のように自宅での治療が求められることも多い。資源や環境が限られた中で治療方法を選択する必要があるため、柔軟に新しい方法の導入も重要であると感じた。しかし一方で、新しい方法を開始する際には、思わぬトラブルなどが起こり得る。そのため院内での十分な情報共有とディスカッションが必要であり、それを実践することで安全に開始することができた。